

科目名	コンピュータ概論ⅠA						学期	前期	
担当教員	一ノ瀬伊通子	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	必修	単位数	6
学習目的	コンピュータの構造・原理・周辺機器の理解・コンピュータシステムに関する基礎知識の理解・ネットワークシステム・データベースシステムに関する基礎知識を理解する。□								
授業内容	コンピュータの構造・原理・周辺機器の理解・コンピュータシステムに関する基礎知識の理解								
学習目標	基本情報技術者試験テクノロジー分野の知識を60%以上理解する								
使用テキスト	科目A対策テキスト3種、情報処理技術者能力認定試験2級問題集第10版、基本情報技術者 科目A&科目B 対策問題集、令和08年 イメージ&クレーパー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室								
週数	授業計画				事前・事後の学習				
1	イントロダクション 第1章コンピュータの基礎知識(能力認定試験2級の範囲)	【事前】	ホームページの履修概要を読む						
		【事後】	第1章の用語をまとめる						
2	第2章コンピュータの数値表現(第1回) (能力認定試験2級の範囲)	【事前】	テキスト第2章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む						
		【事後】	テキスト演習問題復習						
3	第2章コンピュータの数値表現(第2回) (能力認定試験2級の範囲)	【事前】	テキスト第2章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む						
		【事後】	テキスト演習問題復習						
4	第3章ハードウェア(第1回) (能力認定試験2級の範囲)	【事前】	テキスト第3章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む						
		【事後】	テキスト演習問題復習						
5	第3章ハードウェア(第2回) (能力認定試験2級の範囲)	【事前】	テキスト第3章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む						
		【事後】	テキスト演習問題復習						
6	第3章ハードウェア(第3回) (能力認定試験2級の範囲)	【事前】	テキスト第3章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む						
		【事後】	テキスト演習問題復習						
7	第4章システムの構成要素 (能力認定試験2級の範囲)	【事前】	テキスト第4章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む						
		【事後】	テキスト演習問題復習						
8	第1回模擬試験 解答・解説	【事前】	問題集の該当範囲を予習						
		【事後】	模擬試験の解答見直しと復習						
9	第2回模擬試験 解答・解説	【事前】	問題集の該当範囲を予習						
		【事後】	模擬試験の解答見直しと復習						
10	第3回模擬試験 解答・解説	【事前】	問題集の該当範囲を予習						
		【事後】	模擬試験の解答見直しと復習						
11	第4回模擬試験 解答・解説	【事前】	問題集の該当範囲を予習						
		【事後】	模擬試験の解答見直しと復習						
12	第5回模擬試験 解答・解説	【事前】	問題集の該当範囲を予習						
		【事後】	模擬試験の解答見直しと復習						
13	第1回科目A模擬試験 解答・解説	【事前】	問題集の該当範囲を予習						
		【事後】	模擬試験の解答見直しと復習						
14	第2回科目A模擬試験 解答・解説	【事前】	問題集の該当範囲を予習						
		【事後】	模擬試験の解答見直しと復習						
15	第3回科目A模擬試験 解答・解説	【事前】	問題集の該当範囲を予習						
		【事後】	模擬試験の解答見直しと復習						
		評価項目/割合		評価内容					
評価基準	1. 課題	30 %	教科書内の練習問題および授業中の演習課題 ノート・プリント等の提出						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況および授業への取り組み姿勢・忘れ物 重要ポイントを各自しっかりチェックされているか 演習問題等への積極的取り組み姿勢						
	3. テストその他	40 %	各章ごとの確認テストおよび練習問題 期末試験						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	授業ではGoogleClassroomを使用します。ノートPCを持参すること。 サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級1部(6月) 基本情報技術者試験科目A免除試験(7月)								

科目名	システム開発と情報化 I A						学期	前 期	
担当教員	一ノ瀬伊通子	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	必修	単位数	6
学習目的	コンピュータの構造・原理・周辺機器の理解・コンピュータシステムに関する基礎知識の理解・ネットワークシステム・データベースシステムに関する基礎知識を理解する。□								
授業内容	ネットワークシステム・情報セキュリティ・システム開発とマネジメントに関する基礎知識を理解する								
学習目標	基本情報技術者試験マネジメント・ストラテジ分野の知識を60%以上理解する								
使用テキスト	科目A対策テキスト3種、情報処理技術者能力認定試験2級問題集第10版、基本情報技術者 科目A&科目B 対策問題集、令和08年 イメージ&クレーパー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室								
週数	授業計画				事前・事後の学習				
1	<システム開発技術> 第2章 ネットワーク(第1回)(能力認定試験2級の範囲)				【事前】	ホームページの履修概要を読む			
					【事後】	第2章を読み、用語をまとめる			
2	<システム開発技術> 第2章 ネットワーク(第2回)(能力認定試験2級の範囲)				【事前】	テキスト第2章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む			
					【事後】	テキスト演習問題復習			
3	<システム開発技術> 第2章 ネットワーク(第3回)(能力認定試験2級の範囲)				【事前】	テキスト第2章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む			
					【事後】	テキスト演習問題復習			
4	<システム開発技術> 第3章 情報セキュリティ(第1回) (能力認定試験2級の範囲)				【事前】	テキスト第3章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む			
					【事後】	テキスト演習問題復習			
5	<システム開発技術> 第3章 情報セキュリティ(第2回) (能力認定試験2級の範囲)				【事前】	テキスト第3章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む			
					【事後】	テキスト演習問題復習			
6	<マネジメントと情報化> 第1章 システム開発とマネジメント(第1回) (能力認定試験2級の範囲)				【事前】	テキスト第1章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む			
					【事後】	テキスト演習問題復習			
7	<マネジメントと情報化> 第1章 システム開発とマネジメント(第2回) (能力認定試験2級の範囲)				【事前】	テキスト第1章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む			
					【事後】	テキスト演習問題復習			
8	<マネジメントと情報化> 第2章 サービスマネジメントとシステム戦略 (能力認定試験2級の範囲)				【事前】	テキスト第2章の予習かやのき先生テキスト該当章を読む			
					【事後】	テキスト演習問題復習			
9	能力認定試験2級1部の過去問題の分析と解説(第1回)				【事前】	検定対策問題集の学習			
					【事後】	模擬試験の解答見直しと復習			
10	能力認定試験2級1部の過去問題の分析と解説(第2回)				【事前】	検定対策問題集の学習			
					【事後】	模擬試験の解答見直しと復習			
11	能力認定試験2級1部の過去問題の分析と解説(第3回)				【事前】	検定対策問題集の学習			
					【事後】	模擬試験の解答見直しと復習			
12	能力認定試験2級1部の過去問題の分析と解説(第4回)				【事前】	検定対策問題集の学習			
					【事後】	模擬試験の解答見直しと復習			
13	科目A免除試験の過去問題の分析と解説(第1回)				【事前】	検定対策問題集の学習			
					【事後】	模擬試験の解答見直しと復習			
14	科目A免除試験の過去問題の分析と解説(第2回)				【事前】	検定対策問題集の学習			
					【事後】	模擬試験の解答見直しと復習			
15	科目A免除試験の過去問題の分析と解説(第3回)				【事前】	検定対策問題集の学習			
					【事後】	模擬試験の解答見直しと復習			
	評価項目/割合				評価内容				
評価基準	1. 課題	30 %	授業中の演習課題の結果						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況および授業への取り組み姿勢・忘れ物 重要ポイントを各自しっかりチェックされているか 演習問題等への積極的取り組み姿勢						
	3. テストその他	40 %	模擬試験・本試験の結果						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	授業ではGoogleClassroomを使用します。ノートPCを持参すること。 サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級1部(6月) 基本情報技術者試験科目A免除試験(7月)								

科目名	アルゴリズムとデータ構造 I A						学期	前 期	
担当教員	中井 兵馬	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	必修	単位数	4
学習目的	プログラミング基礎であるアルゴリズムを理解することで論理的思考について学習する。								
授業内容	プログラミング基礎であるアルゴリズムを理解することで論理的思考の訓練を行うとともに問題解決の手順を学ぶ。								
学習目標	論理的な思考の訓練を行い、自分の考えをアルゴリズムで表現できることを理解する。								
使用テキスト	情報処理試験合格へのパスポート アルゴリズムとデータ構造、基本情報技術者[科目B]アルゴリズムとプログラミングトレーニング問題集、基本情報技術者 科目A&科目B 対策問題集								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	オリエンテーション 第1章 アルゴリズム入門	【事前】	P4～P10を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
2	第2章 流れ図の基本パターン 第3章 疑似言語の基本パターン	【事前】	P12～P34, P36～P49を読む。						
		【事後】	P50～P51の練習問題に取り組む。						
3	中間テスト1(第1章～第3章)	【事前】	テスト勉強を行う。						
		【事後】	必要に応じて追試を行う。						
4	第4章 計算のアルゴリズム	【事前】	P54～P60, P61～P66を読む。						
		【事後】	P67～P72の練習問題に取り組む。						
5	第5章 手続・関数	【事前】	P74～P87を読む。						
		【事後】	P88～P90の練習問題に取り組む。						
6	第6章 配列の操作	【事前】	P92～P101を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
7	第6章 配列の操作	【事前】	P102～P108を読む。						
		【事後】	P109～P112の練習問題に取り組む。						
8	中間テスト2(第4章～第6章)	【事前】	テスト勉強を行う。						
		【事後】	必要に応じて追試を行う。						
9	第7章 探索のアルゴリズム	【事前】	P114～P119, P120～P122を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
10	第7章 探索のアルゴリズム	【事前】	P123～P129, P130～P132を読む。						
		【事後】	P133～P136の練習問題に取り組む。						
11	第8章 整列のアルゴリズム	【事前】	P138～P151, P152～P157を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
12	第8章 整列のアルゴリズム	【事前】	P158～P160, P161～P162を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
13	第8章 整列のアルゴリズム	【事前】	P163～P167, P168～P172を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
14	第8章 整列のアルゴリズム	【事前】	P173～P178の練習問題に取り組む。						
		【事後】	期末テストに向けた復習を行う。						
15	期末テスト(第7章～第8章)	【事前】	テスト勉強を行う。						
		【事後】	必要に応じて追試を行う。						
	評価項目/割合	評価内容							
評価基準	1. 課題 30 %	授業中の演習問題、課題の状況 練習問題等の課題に対する取り組み							
	2. 授業姿勢 30 %	出席状況 授業に対する積極性(発表回数、質問回数、質問の内容)							
	3. テストその他 40 %	前回授業内容の小テスト 中間テスト 期末テスト 追試							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	基本情報処理技術者試験科目B								

科目名	アルゴリズムとデータ構造 I B						学期	後 期	
担当教員	中井 兵馬	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	必修	単位数	4
学習目的	プログラミング基礎であるアルゴリズムを理解することで論理的思考について学習する。								
授業内容	プログラミング基礎であるアルゴリズムを理解することで論理的思考の訓練を行うとともに問題解決の手順を学ぶ。								
学習目標	論理的な思考の訓練を行い、自分の考えをアルゴリズムで表現できることを理解する。								
使用テキスト	情報処理試験合格へのパスポート アルゴリズムとデータ構造、基本情報技術者[科目B]アルゴリズムとプログラミングトレーニング問題集、基本情報技術者 科目A&科目B 対策問題集								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	第9章 オブジェクト指向プログラミングの基本パターン	【事前】	P180～P184,P185～186を読む。						
		【事後】	P187～P190の練習問題に取り組む。						
2	第10章 データ構造	【事前】	P192～P201, P202～P205を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
3	第10章 データ構造	【事前】	P206～P212, P213～P217を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
4	第10章 データ構造	【事前】	P218～P221, P222～P226を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
5	第10章 データ構造	【事前】	P227～P233を読む。 P234～P238の練習問題に取り組む。						
		【事後】	中間テストに向けた復習を行う。						
6	中間テスト1(第9章～第10章)	【事前】	テスト勉強を行う。						
		【事後】	必要に応じて追試を行う。						
7	第11章 実践アルゴリズム	【事前】	P240～P246,P247～P255を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
8	第11章 実践アルゴリズム	【事前】	P256～P262,P263～P265を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
9	第11章 実践アルゴリズム	【事前】	P266～P275を読む。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
10	模擬試験問題解説担当決め 模擬試験問題解説づくり	【事前】	特になし						
		【事後】	解説づくりを完了させる。						
11	模擬試験問題1 相互解説	【事前】	模擬試験問題1を解く。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
12	模擬試験問題2 相互解説	【事前】	模擬試験問題2を解く。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
13	模擬試験問題3 相互解説	【事前】	模擬試験問題3を解く。						
		【事後】	小テストに向けた復習を行う。						
14	模擬試験問題4 相互解説	【事前】	模擬試験問題4を解く。						
		【事後】	期末テストに向けた復習を行う。						
15	期末テスト(11章、模擬試験問題)	【事前】	テスト勉強を行う。						
		【事後】	必要に応じて追試を行う。						
	評価項目/割合	評価内容							
評価基準	1. 課題 30 %	授業中の演習問題,課題の状況 練習問題等の課題に対する取り組み							
	2. 授業姿勢 30 %	出席状況 授業に対する積極性(発表回数、質問回数、質問の内容)							
	3. テストその他 40 %	前回授業内容の小テスト 中間テスト 期末テスト 追試							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	基本情報処理技術者試験科目B								

科目名	情報セキュリティ基礎 IA						学期	前期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	近年多様化・巧妙化する様々な脅威について知り、情報資産を正常に維持するための基本的な知識の理解と習得を目指す。								
授業内容	情報セキュリティに関する基本的な事柄について学習し、情報処理技術者試験の基礎知識を学ぶ。								
学習目標	情報セキュリティに関する基本的な知識を獲得する。								
使用テキスト	うかる！ 基本情報技術者 [科目B・セキュリティ編] 2024年版								
週数	授業計画								
1	第0章セキュリティとは何か？第1章セキュリティの基本								
2	第1章セキュリティの基本								
3	第2章セキュリティ管理								
4	第2章セキュリティ管理								
5	第3章セキュリティ技術評価								
6	第3章セキュリティ技術評価								
7	第4章セキュリティ対策								
8	第4章セキュリティ対策								
9	第5章セキュリティ実装技術								
10	第5章セキュリティ実装技術								
11	第7章事業継続計画(BCP)・インシデント管理								
12	第6章サンプル問題・過去問題								
13	第6章サンプル問題・過去問題								
14	第6章サンプル問題・過去問題								
15	第6章サンプル問題・過去問題								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	40 %	期末テストを評価する。						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	データベース基礎 I A						学期	後 期	
担当教員	内山 陽子	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	オープンソースデータベースを題材に、データベースの基本概念を理解し、SQLを用いた基本的な操作を習得する								
授業内容	データベースの基本を、オープンソースRDB(SQLite / MySQL等)を用いて学習する								
学習目標	SQLの基本構文を理解し、データベースの簡単な操作ができるようになる								
使用テキスト	スッキリわかるSQL入門 第4版								
週数	授業計画								
1	データベースとは何か(基本的な仕組み)								
2	テーブルと主キー(行・列・主キー)								
3	SQLの基本ルール、SELECT文の基本								
4	WHERE句の条件式								
5	検索結果の加工								
6	4大命令(INsert / UPDATE / DELETE)								
7	式と関数								
8	集計、グループ化								
9	テーブルの結合								
10	副問い合わせ								
11	トランザクション								
12	テーブルの作成・テーブルの設計								
13	確認テスト								
14	データベース演習								
15	データベース演習								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30 %	授業内の課題の提出、及び、成果物を評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する						
	3. テストその他	40 %	確認テスト、演習課題を評価する						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	ネットワーク基礎ⅡA						学期	前期	
担当教員	中井 兵馬	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	一般的に会社で利用されているWindowsネットワーク基礎知識に関して、実習を通して学習する。								
授業内容	演習を通して段階的にネットワークを構築し、ネットワーク技術を理解する。								
学習目標	ネットワークの仕組みや技術を理解し、ネットワークの基礎を身に付ける。								
使用テキスト	[ネットワーク超入門]手を動かしながら学ぶIPネットワーク								
週数	授業計画								
1	Chapter1 ネットワークの全体像								
2	Chapter1 ネットワークの全体像								
3	Chapter2 Cisco機器の設定の基本								
4	Chapter3 イーサネットとレイヤ2スイッチ								
5	Chapter4 VLAN								
6	Chapter5 IPアドレスの基礎								
7	Chapter6 レイヤ3スイッチ								
8	Chapter7 ルーティングの基礎								
9	Chapter8 RIP								
10	Chapter8 RIP								
11	Chapter9 インターネットへの接続								
12	Chapter9 インターネットへの接続								
13	Appendix 総合演習								
14	Appendix 総合演習								
15	期末テスト								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30 %	授業内での課題を評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	授業への態度および積極性を評価する 出欠状況を評価する						
	3. テストその他	40 %	演習課題、および確認テストを評価する						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検 定・課外 授業実施 予定・その他	特になし								

科目名	情報処理演習 I A						学期	前期	
担当教員	内山 陽子	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	情報処理技術者として必要な基礎知識を学習する								
授業内容	国家試験の情報処理技術者試験の合格を目指す								
学習目標	各目標検定の合格								
使用テキスト	情報処理技術者能力認定試験2級問題集 イメージ&クレーバー方式でよくわかるかやのき先生の基本情報技術者教室 など								
週数	授業計画								
1	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
2	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
3	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
4	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
5	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
6	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
7	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
8	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
9	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
10	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
11	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
12	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
13	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
14	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
15	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の演習								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	20 %	授業内での課題を評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	授業への態度および積極性を評価する 出欠状況を評価する						
	3. テストその他	50 %	演習課題、および確認テストを評価する						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	情報処理技術者試験・基本情報技術者(経済産業省) 科目A免除対象科目履修講座修了試験 情報処理技術者能力認定試験3級・情報処理技術者能力認定試験2級1部								

科目名	情報処理演習 I B							学期	後 期
担当教員	一ノ瀬伊通子・内山陽子・中井兵馬	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	2
学習目的	情報処理技術者として必要な基礎知識を学習する								
授業内容	習熟度別クラスに分かれ、各目標検定合格に向けた演習を行う。								
学習目標	各目標検定の合格								
使用テキスト	基本情報技術者 科目A&科目B 対策問題集 など								
週数	授業計画								
1	過去問題の分析と解説								
2	過去問題の分析と解説								
3	過去問題の分析と解説								
4	過去問題の分析と解説								
5	過去問題の分析と解説								
6	過去問題の分析と解説								
7	過去問題の分析と解説								
8	過去問題の分析と解説								
9	過去問題の分析と解説								
10	過去問題の分析と解説								
11	過去問題の分析と解説								
12	過去問題の分析と解説								
13	過去問題の分析と解説								
14	過去問題の分析と解説								
15	過去問題の分析と解説								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	20 %	授業内での課題を評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	授業への態度および積極性を評価する 出欠状況を評価する						
	3. テストその他	50 %	演習課題、および確認テストを評価する						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	情報処理技術者試験・基本情報技術者(経済産業省) 科目A免除対象科目履修講座修了試験 情報処理技術者能力認定試験3級・情報処理技術者能力認定試験2級1部								

科目名	Java基礎 I A						学期	前期	
担当教員	高井波留美	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	3
学習目的	Java言語の基礎を理解し、様々なプログラムを作成できるようになる								
授業内容	統合開発環境を使用して、基礎を学びながら、いろいろなJavaプログラムを作成していく								
学習目標	Javaプログラミングの基礎を理解・習得し、自分でJavaプログラムをできるようになる								
使用テキスト	スッキリわかるJava入門 第4版								
週数	授業計画								
1	Java開発環境の設定と基本操作 Javaプログラムの基本を理解する(Javaプログラムの構造と法則)								
2	変数、式、演算について理解する								
3	いろいろな演算と型変換・演習問題								
4	制御文(IF文・switch文)について理解する(1) 基礎学習								
5	制御文(IF文・switch文)について理解する(2) 演習問題と確認テスト								
6	制御文(while文/For文)について理解する(1) 基礎学習								
7	制御文(while文/For文)について理解する(2) 演習問題								
8	基本的な文字列操作								
9	総合的プログラム1と確認テスト								
10	配列について理解する(1) 配列の基礎								
11	配列について理解する(2) 演習問題								
12	配列について理解する(3) 多次元配列と応用								
13	総合的プログラム2と確認テスト								
14	メソッドの理解と実践(1)基礎学習								
15	メソッドの理解と実践(2)演習問題								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30 %	授業内での課題を評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	授業への態度および積極性を評価する 出欠状況を評価する						
	3. テストその他	40 %	演習課題、および確認テストを評価する						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	特になし								

科目名	Java基礎 I B						学期	後 期	
担当教員	高井波留美	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	3
学習目的	現在、開発言語の主流となったJava言語の特徴とその応用について、Javaプログラム演習を通して学習する。□								
授業内容	クラスの作成、いろいろなクラスの利用を通して、オブジェクト指向を意識したプログラム作成を行う								
学習目標	Javaによるクラス学習を通してオブジェクト指向プログラミングの基礎を身につける								
使用テキスト	スッキリわかるJava入門 第4版								
週数	授業計画								
1	前期復習 クラスとパッケージ(名前空間)								
2	オブジェクト指向の意義と全体像 クラスを作ってみよう								
3	インスタンスとコンストラクタ カプセル化とアクセス制御								
4	クラスの練習(1)								
5	クラスの練習(2)								
6	クラスと継承								
7	クラス継承の練習								
8	クラスと継承(演習問題と 確認テスト)								
9	高度な継承(インターフェイス)								
10	オブジェクト指向を意識したプログラム作成(演習問題)								
11	Javaプログラミングで知っておきたいこと								
12	文字列と日付の扱い方								
13	コレクション(1)								
14	コレクション(2)								
15	例外処理 JavaのできることとJava基礎のまとめ								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30 %	授業内での課題を評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	授業への態度および積極性を評価する 出欠状況を評価する						
	3. テストその他	40 %	演習課題、および確認テストを評価する						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	特になし								

科目名	Web演習 I A						学期	後 期	
担当教員	伊東 順一	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
関係実務等	株式会社MINAMIにてシステムエンジニア								
学習目的	Webサイトの構築の技術のうち静的なページを作成できるようになる								
授業内容	HTML及びCSSの説明と実習								
学習目標	HTMLとCSSを用いたページを作成できるようになる HTMLとCSSの違いを理解する								
使用テキスト	これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS&Webデザイン1冊目の本								
週数	授業計画								
1	はじめに HTMLとCSS								
2	HTMLの基礎 インターネットでは画面サイズや持っているフォントが異なるパソコンが使われている								
3	HTMLで公開できる文章の形 見出しと段落 箇条書きや引用など								
4	HTMLの見出しや段落の表示を調整する 属性の設定 見出しや段落に名前をつける id, class								
5	HTMLの文 (Text)の書き方 日本語の書き方								
6	HTMLファイルの奥付 (ヘッダー) の書き方								
7	HTML総合演習								
8	HTMLとCSS CSSの基本 CSSを書く場所								
9	HTML中の要素を選んでCSSで操作する セレクター								
10	CSSでの色やサイズや文字列の指定方法								
11	HTMLの箱型の要素を囲ったり色を付けるボックスモデル 段落や箇条書きを操作する								
12	Fontの指定の仕方 インターネットではすべての端末が同じフォントを持っているわけではない テキストの表示方法を定める								
13	ブログサイトのCSS フレックスボックスレイアウト 「ページ全体」、「ヘッダ」、「メインエリア」								
14	ブログサイトのCSS 「サイドバー」、「記事エリア」、「フッター」								
15	HTMLとCSSの総合演習								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	50 %	課題達成率で評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	出席と授業態度						
	3. テストその他	20 %	授業中に行う質問への回答で評価する						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	Web演習ⅡA						学期	前 期	
担当教員	伊東 順一	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
関係実務等	株式会社MINAMIにてシステムエンジニア								
学習目的	JavaScriptを使った動的なページを作成できるようになる								
授業内容	JavaScriptの説明と実習								
学習目標	HTML&CSSとJavascriptの使い方を理解する								
使用テキスト	1冊ですべて身につくJavaScript入門講座								
週数	授業計画								
1	最初におこう！JavaScriptでできること JavaScriptに触れてみよう！								
2	JavaScriptの基本を学ぼう！（その1）								
3	JavaScriptの基本を学ぼう！（その2）								
4	イベントで操作しよう！（その1）								
5	イベントで操作しよう！（その2）								
6	複数のデータを使ってみよう！（その1）								
7	複数のデータを使ってみよう！（その2）								
8	アニメーションを加えよう！（その1）								
9	アニメーションを加えよう！（その2）								
10	Webページを作ってみよう！（その1）								
11	Webページを作ってみよう！（その2）								
12	Webページを作ってみよう！（その3）								
13	JavaScriptの基本文法								
14	Javascriptのデバッグ方法								
15	総合演習								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	50%	課題達成率で評価する						
	2. 授業姿勢	30%	出席と授業態度						
	3. テストその他	20%	授業中に行う質問への回答で評価する						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・ 課外授業 実施予定・ その他	-								

科目名	インターンシップ I A						学期	後 期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	企業での体験実習を通して実践的な技術や就業に必要なコミュニケーションを身につける。								
授業内容	企業で通年で40時間程度の就業体験を行い、レポート提出と発表を行う。								
学習目標	就業体験を通して、業界理解を深め就職活動に役立てる。また実習を通して自主性・主体性・ビジネスマナーを習得する。								
使用テキスト	-								
週数	授業計画								
1	業界研究								
2	インターンシップ先の選定								
3	インターンシップの時期決定および申し込み・実習願いの提出								
4	自己紹介表・エントリーシートの作成・添削指導								
5	インターンシップ先の事前学習								
6	インターンシップ(40時間程度)								
7	インターンシップ(40時間程度)								
8	インターンシップ(40時間程度)								
9	インターンシップ(40時間程度)								
10	インターンシップ(40時間程度)								
11	事後レポートの作成								
12	事後レポートの作成								
13	事後レポートの作成								
14	インターンシップ報告会								
15	インターンシップ報告会								
	評価項目/割合			評 価 内 容					
評価基準	1. 課 題	50 %	インターンシップ実習レポート及びクラス内発表の成果を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	実習先評価票に基づき評価する。						
	3. テストその他	20 %	実習先評価票に基づき評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	最新IT技術ⅡA						学期	通年	期
担当教員	鮎川 隼人	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
関係実務等	株式会社TODOにて勤務								
学習目的	最新のIT業界・技術を知り、IT技術者としての思考やアイデア創出のベースを作る。								
授業内容	最新のIT業界・技術を調査、体験し、IT業界の将来像を考察する。								
学習目標	最新のIT業界・技術を知り、将来のIT動向および社会動向に対する意見を語れるようになる。								
使用テキスト	テキストはありません。予め、講義資料を配布いたします。								
週数	授業計画								
1	LINE APIとChatGPTを用いて、チャットボットを作成してみよう チャットボットの仕組みを理解して、APIを用いたプログラムの呼び出しやとサーバ環境について学び、LINEで送ったメッセージに対して、ChatGPTにより回答を生成するボットを作ります。								
2	LINE APIとChatGPTを用いて、チャットボットを作成してみよう チャットボットの仕組みを理解して、APIを用いたプログラムの呼び出しやとサーバ環境について学び、LINEで送ったメッセージに対して、ChatGPTにより回答を生成するボットを作ります。								
3	LINE APIとChatGPTを用いて、チャットボットを作成してみよう チャットボットの仕組みを理解して、APIを用いたプログラムの呼び出しやとサーバ環境について学び、LINEで送ったメッセージに対して、ChatGPTにより回答を生成するボットを作ります。								
4	LINE APIとChatGPTを用いて、チャットボットを作成してみよう チャットボットの仕組みを理解して、APIを用いたプログラムの呼び出しやとサーバ環境について学び、LINEで送ったメッセージに対して、ChatGPTにより回答を生成するボットを作ります。								
5	GPSロガーをESP32で作って、自分の移動した状況を見える化してみよう！ マイコンとセンサーや出力装置を用いた電子工作を通じてハードの仕組みを理解します。								
6	GPSロガーをESP32で作って、自分の移動した状況を見える化してみよう！ マイコンとセンサーや出力装置を用いた電子工作を通じてハードの仕組みを理解します。								
7	GPSロガーをESP32で作って、自分の移動した状況を見える化してみよう！ マイコンとセンサーや出力装置を用いた電子工作を通じてハードの仕組みを理解します。								
8	GPSロガーをESP32で作って、自分の移動した状況を見える化してみよう！ マイコンとセンサーや出力装置を用いた電子工作を通じてハードの仕組みを理解します。								
9	FlutterでARアプリを作ってみよう ～スマホの中に世界を拡張してみよう～								
10	FlutterでARアプリを作ってみよう ～スマホの中に世界を拡張してみよう～								
11	FlutterでARアプリを作ってみよう ～スマホの中に世界を拡張してみよう～								
12	FlutterでARアプリを作ってみよう ～スマホの中に世界を拡張してみよう～								
13	AIにプログラミングをしてもらおう AIにプロンプトを出すことにより、思い描いた機能を実装するプログラムを生成してもらいます。オープンデータを用いて自分のアイデアを形にする経験をしてみましょう。								
14	AIにプログラミングをしてもらおう AIにプロンプトを出すことにより、思い描いた機能を実装するプログラムを生成してもらいます。オープンデータを用いて自分のアイデアを形にする経験をしてみましょう。								
15	AIにプログラミングをしてもらおう AIにプロンプトを出すことにより、思い描いた機能を実装するプログラムを生成してもらいます。オープンデータを用いて自分のアイデアを形にする経験をしてみましょう。								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	50 %	各課題の内容・プロセスを評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況および授業への取り組み姿勢・忘れ物 演習への積極的取り組み姿勢						
	3. テストその他	20 %	各課題の考察を評価する						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・ 課外授業 実施予定・ その他	特になし								

科目名	ノーコード開発ⅡA						学期	前期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	ノーコード開発システムを利用した開発スキルを習得する。								
授業内容	ノーコードツール Kintoneを使用して業務システムの作成について学習する。								
学習目標	ノーコードツール Kintoneを用いてクラウドサービスを構築できる。								
使用テキスト	・「kintone入門編」 ・「便利に使おうガイドブック」								
週数	授業計画								
1	DXやノーコード開発kintoneの概要								
2	他のアプリの作成方法及びアプリの開発演習								
3	テーブル及び計算式								
4	アプリの連携								
5	アプリの連携演習								
6	グラフと集計機能								
7	プロセス管理								
8	プロセス管理と通知								
9	アクセス権の設定とスペース活用(基礎)								
10	ピープル・スペース活用(応用)各自発表								
11	事例動画から学ぶ(グループワーク)業種別利用シーン①								
12	事例動画から学ぶ(グループワーク)								
13	業種別利用シーン②								
14	管理者権限の把握システム拡張に関して								
15	課題発表								
評価基準	評価項目/割合			評価内容					
	1. 課題	30 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	40 %	作成したシステムの内容、創意工夫点を評価する。 システムの全体、発表内容を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	クラウド基礎 I A						学期	後 期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	2
学習目的	クラウドコンピューティングのコンセプトを総合的に理解する。								
授業内容	実際にクラウドシステムを使用しながら、クラウドの主要なサービス、セキュリティ、アーキテクチャを学ぶ。								
学習目標	クラウドコンピューティングの特徴と優位性を説明することができる。								
使用テキスト	AWS 認定クラウドプラクティショナー								
週数	授業計画								
1	クラウドのコンセプト概要 クラウドを導入することによって企業の仕事の方法がどのように変化するのかを理解する。								
2	クラウドエコノミクス 総所有コストの要素を理解する。								
3	インフラストラクチャの概要 AWS リージョン、アベイラビリティゾーン、エッジロケーションの違いを理解する。								
4	クラウドの主要サービス（コンピューティング 1） コンピューティングサービスを理解する。								
5	クラウドの主要サービス（コンピューティング 2） ソリューションを強化するためにクラウドで利用可能な コンピューティングサービスを理解する。								
6	クラウドの主要サービス（ストレージ 1） クラウドストレージの特徴について理解する。								
7	クラウドの主要サービス（ストレージ 2） データストレージアーキテクチャを理解する。								
8	クラウドの主要サービス（VPC） クラウド上の仮想ネットワークを理解する。								
9	クラウドの主要サービス（データベース） DB サーバーを構築およびアプリを使用したデータベースとの連携を理解する。								
10	クラウドの主要サービス（負荷分散、スケーリング、モニタリング） アーキテクチャのスケーリングおよび負荷分散ができるようになる。								
11	クラウドセキュリティ 1 責任共有モデルについて理解する。								
12	クラウドセキュリティ 2 さまざまな種類のセキュリティ認証情報について理解する。								
13	クラウドセキュリティ 3 セキュリティコンプライアンスについて理解する。								
14	クラウドアーキテクチャの設計 クラウドソリューションを作成する方法を理解する。								
15	クラウドの請求とサポート コストの確認と見積りができるようになる。								
	評価項目/割合			評 価 内 容					
評 価 基 準	1. 課 題	30 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授 業 姿 勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	40 %	期末テストを評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	システム開発技法ⅡA						学期	前期	
担当教員	内山 陽子	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	2
学習目的	卒業製作における設計書の作り方を学び、製作システムの決定プロセスを理解する。								
授業内容	システム開発事例による知識習得と設計書作成を体験する。								
学習目標	設計書を一人で作成できるようになること。								
使用テキスト	1週間でシステム開発の基礎が学べる本								
週数	授業計画								
1	システム開発の基礎 システム開発とは何か								
2	システム開発の基礎 工程の概要とポイント(要件定義～設計)								
3	システム開発の基礎 工程の概要とポイント(開発～テスト) 運用と保守								
4	要件定義書								
5	外部設計書(身近なアプリ) 画面設計								
6	外部設計書(身近なアプリ) テーブル設計								
7	データモデリング								
8	設計(グループ演習)								
9	設計(グループ演習)								
10	設計(グループ演習)								
11	レビュー								
12	設計(個人演習)								
13	設計(個人演習)								
14	卒業課題 開発テーマ								
15	卒業課題 要件定義書 レビュー								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	50 %	課題の成果物(各設計書)を評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する						
	3. テストその他	20 %	卒業課題の要件定義書を評価する						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	プロジェクトマネジメントⅡA						学期	前期	
担当教員	知切 四書	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	プロジェクトマネジメントとは何か、そのプロセスを理解し、実際に近い事例を通してPMを疑似体験する								
授業内容	プロジェクトマネジメントの基本的な知識の講義、及びPMの疑似体験を通して、PM実践のプロセスの習得								
学習目標	簡単なプロジェクトなら一連のプロジェクトプロセスを実行できる								
使用テキスト	PMBOK第7版								
週数	授業計画								
1	プロジェクトとは何か： プロジェクトと通常業務の違いを理解し、プロジェクトを実行するプロジェクトマネジメントプロセスを理解する。								
2	プロジェクトマネジメントのプロセス詳細（1） 各プロセスの詳細を講義する。 立上げのプロセス、計画のプロセス								
3	プロジェクトマネジメントのプロセス詳細（2） 実行のプロセス、コントロールのプロセス、終結のプロセス								
4	実際のプロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの進め方（1） プロジェクトの立上げ、プロジェクトマネジメント計画								
5	実際のプロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの進め方（2） プロジェクトの実行、コントロール、終結								
6	疑似システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの演習（1） プロジェクト憲章、プロジェクト要求、WBSの策定								
7	疑似システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの演習（2） 作業定義、作業工数期間見積、クリティカルパス分析								
8	疑似システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの演習（3） 負荷山積山崩、スケジューリング								
9	疑似システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの演習（4） コストベースライン								
10	疑似システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの演習（5） EVM管理								
11	疑似システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの演習（6） EVM管理続き								
12	プロジェクトと経営戦略との整合性： プロジェクトの成功は経営戦略との整合性が重要であり、そのための評価技法を学ぶ。								
13	プロジェクト管理の社会的責任： PM裁判事例を通じてPMの社会的責任とその限界について講義する								
14	新しいプロジェクト管理手法： これまでのPMBOKを基本にしたプロジェクト管理技法から新たにかいはつされた手法（クリティカルチェーン法、アジャイル）について講義する。								
15	まとめ								
評価基準	評価項目/割合			評価内容					
	1. 課題	30%		演習課題の達成状況进行评估する					
	2. 授業姿勢	30%		出席日数、授業態度から評価する					
	3. テスト	40%		テスト結果から評価する					
課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検 定・課外 授業実施 予定・そ の他	-								

科目名	IT戦略概論ⅡA						学期	前期	
担当教員	知切 四書	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	企業の経営戦略を実現するためにITをどのように使うのかというIT戦略について学習することを目的とする。								
授業内容	企業の経営戦略とその実現のためのイノベーションについて概観し特にデジタルを利用したDXを中心としたIT戦略について講義する。								
学習目標	経営戦略、イノベーション、ビジネスモデル、DXについて理解する。								
使用テキスト	-								
週数	授業計画								
1	経営に貢献するITの歴史を概観する。業務ごとの効率化・生産性向上から出発したITの歴史はインターネットの発明以降、ITがビジネスを創造する時代を迎え、GAF Aをはじめとする新たなビジネスが続々と現れるようになった。								
2	続々と現れたネットビジネスについて、それぞれの価値提案は何かを演習で解明する。								
3	経営戦略についてその歴史について概観する。 経営戦略は大きく分けて、ポジショニング派、ケイパビリティ派、両派を融合したコンフィグレーション派、そして現代の試行錯誤派に分かれるがそれぞれについて概要を解説する。								
4	これまでに開発された代表的な経営戦略フレームワークについて演習する（SWOT分析フレームワーク）								
5	フレームワーク演習の続き（PPMフレームワーク）								
6	フレームワーク演習の続き（IDEO、カスタマージャーニーマップ分析）								
7	経営戦略と共に発展したイノベーションの歴史を概観する。 そして、イノベーションを実現するための理論である「両利きの経営」について解説し、「両利きの経営」に貢献するオープンイノベーション戦略について解説する。								
8	ビジネスモデルとは何かを解説し、イノベーションとビジネスモデルの関係を明らかにする。 そして、ビジネスモデルを表現するビジネスモデルのフレームワークについて講義する								
9	実企業のビジネスモデルをフレームワークを使用して記述する演習								
10	アマゾンのミッション、戦略、イノベーションについて解説し、アマゾンのビジネスモデルの変遷を概観する。								
11	DXとは何かを解説し、現代のネットビジネスを事例にDXの理解を深める講義を行う。								
12	日本のDXの現状を経産省の「DXレポート」をベースに解説する								
13	Web3の技術について解説する（ブロックチェーン、NFTなど）								
14	AIの概要について講義する								
15	まとめとして事例企業をベースにDXを実現する演習を実施する。								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30%	演習課題の達成状況を評価する						
	2. 授業姿勢	30%	出席日数、授業態度から評価する						
	3. テスト	40%	テスト結果から評価する						
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検 定・課外 授業実施 予定・そ の他	-								

科目名	業務分析ⅡA						学期	前期	
担当教員	知切 四書	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	企業とは何かどのような業務を行っているかを理解し、業務分析設計で必要となる業務プロセスモデルの作成方法を習得する								
授業内容	企業とはなにか、財務部門の行う業務、販売物流業務について解説し、販売物流業務のビジネスプロセスモデルの作成を演習を通して習得する。								
学習目標	企業の業務（財務、販売物流）の概要を理解し、業務のビジネスプロセスモデルを作成できるようになる。								
使用テキスト	ITエンジニアのための「業務知識」が分かる本								
週数	授業計画								
1	会社とは何か： 企業の形態、企業の目的、企業の機能、企業組織、CSRなど企業についての知識を深める								
2	会計のいろは（1）： 仕訳⇒転記⇒決算の仕組みを学ぶ。								
3	会計のいろは（2）： 仕訳⇒転記⇒決算の仕組みを演習で実践する。								
4	会計のいろは（3）： キャッシュフロー計算書の解説とキャッシュフロー計算書作成の演習								
5	財務分析： 一般的な財務分析として用いられる指標について学ぶ。 実企業の財務諸表から様々な財務指標を計算し分析のやり方を学ぶ。								
6	企業価値： 企業価値とは何かを学ぶ。 実企業を例に実際の企業価値を計算し、市場の評価（株価）との関連を学ぶ。								
7	業務分析・設計： 業務分析設計とは何かを学習する。 業務分析・設計の4つのステップ（現状業務分析⇒問題分析⇒施策策定⇒業務設計）を解説する。								
8	ビジネスプロセスモデル： ビジネスプロセスモデルとは何かを学習する。 ビジネスプロセスモデルの種類と当講義で使用するビジネスプロセスモデルの記述方法を学習する。								
9	販売物流業務： 販売物流業務における受注管理、売上管理、債権管理、入金管理の業務について理解する								
10	販売物流業務： 販売物流業務における在庫管理、発注管理、仕入管理、債務管理、出金管理について理解する								
11	販売物流業務のビジネスプロセスモデル作成演習（1）								
12	販売物流業務のビジネスプロセスモデル作成演習（2）								
13	販売物流業務のビジネスプロセスモデル作成演習（3）								
14	販売物流業務のビジネスプロセスモデル作成演習（4）								
15	販売物流業務のビジネスプロセスモデル作成演習（5）								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30%	演習課題の達成状況を評価する						
	2. 授業姿勢	30%	出席日数、授業態度から評価する						
	3. テスト	40%	テスト結果から評価する						
課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検 定・課外 授業実施 予定・そ の他	-								

科目名	業務分析ⅡB						学期	後 期	
担当教員	知切 四書	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	2
学習目的	業務分析設計の手順を理解し、手順に沿ってあるべき姿のビジネスプロセスフローを策定できることを目的とする								
授業内容	演習を通して、現状業務分析⇒問題分析⇒施策立案⇒新業務設計の業務分析設計手順を講義する								
学習目標	業務分析設計手順を理解し、簡単な業務なら新ビジネスプロセスフローを策定できる								
使用テキスト	ITエンジニアのための「業務知識」が分かる本								
週数	授業計画								
1	販売物流業務のビジネスプロセスモデル作成演習（6）								
2	問題解決技法： 真の問題を洗い出すための技法を学ぶ。以下の3つの演習は実際あった事例で、この事例を通して問題解決技法を学ぶ。								
3	問題解決技法の演習（アパレル業）（1）								
4	問題解決技法の演習（アパレル業）（2）								
5	問題解決技法の演習（自動車部品）（1）								
6	問題解決技法の演習（自動車部品）（2）								
7	問題解決技法の演習（ローン会社）（1）								
8	問題解決技法の演習（ローン会社）（2）								
9	販売物流システムの業務分析設計の総合演習（1）： 販売物流業務を例に、現行ビジネスプロセスモデルを策定し、問題点を洗い出し、解決案を策定し、その解決案を網羅した新しいビジネスプロセスモデルを策定する演習								
10	販売物流システムの業務分析設計の総合演習（2）								
11	販売物流システムの業務分析設計の総合演習（3）								
12	販売物流システムの業務分析設計の総合演習（4）								
13	販売物流システムの業務分析設計の総合演習（5）								
14	販売物流システムの業務分析設計の総合演習（6）								
15	業務分析設計手順のまとめ								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30%	演習課題の達成状況を評価する						
	2. 授業姿勢	30%	出席日数、授業態度から評価する						
	3. テスト	40%	テスト結果から評価する						
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検 定・課外 授業実施 予定・そ の他	-								

科目名	技術発表演習ⅡA						学期	前期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	様々なビジネスシーンに必要なパソコンを利用したプレゼンテーションの技法を学習する								
授業内容	人前で話す体験をつみ、まず人前で話す度胸を身につけ、さらに発展し、仕事において説得力のあるプレゼンを行う力を身につける。								
学習目標	研究発表会のツールとして使用することを想定し、卒業成果発表会で発表できる技術を獲得する。								
使用テキスト	30時間でマスター Windows 11対応 プレゼンテーション+PowerPoint2021								
週数	授業計画								
1	第1章 プレゼンテーションとは								
2	第1章 プレゼンテーションとは								
3	第2章 プレゼンテーション資料の作成								
4	第3章 プレゼンテーション本番での操作								
5	第4章 プレゼンテーションの実施と反省								
6	第1回プレゼンターマ「〇〇のしくみ」：個人制作								
7	第1回プレゼンターマ「〇〇のしくみ」：個人制作								
8	第1回プレゼンターマ「〇〇のしくみ」：個人発表								
9	第1回プレゼンターマ「〇〇のしくみ」：個人発表								
10	第1回プレゼンターマ「〇〇のしくみ」：個人発表								
11	第2回プレゼンターマ「ITニュース解説」：個人制作								
12	第2回プレゼンターマ「ITニュース解説」：個人制作								
13	第2回プレゼンターマ「ITニュース解説」：個人発表								
14	第2回プレゼンターマ「ITニュース解説」：個人発表								
15	第2回プレゼンターマ「ITニュース解説」：個人発表								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	30 %	課題の成果物を評価する						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	40 %	プレゼンテーションを実施した際の内容・発表態度・説得力 発表での評価結果						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	システムPBLⅡA						学期	後	期
担当教員	清水 大樹	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	3
学習目的	Project-Based Learning (PBL)手法に基づいてシステム開発を行い、課題、問題点の発掘と解決が主体的にできることを目的とする。								
授業内容	プロジェクト（グループ）を作り、企画の作成と提示、設計～開発～テストを行う。 プロジェクト管理も行う。								
学習目標	グループで共同して企画提案(課題解決策)ができる。設計からテストまで開発工程を実施できる。 プロジェクト管理方法を学習し、プロジェクトマネジメントができる。								
使用テキスト	必要に応じて資料配布								
週数	授業計画								
1	オープニング 授業の進め方、役割分担、カリキュラム説明								
2	企画提案の作成要件定義の理解								
3	企画提案の作成要件定義の理解・企画書作成								
4	企画提案の作成企画書作成								
5	企画提案の作成企画書発表								
6	開発スケジュール策定								
7	設計書作成								
8	設計書作成								
9	システム実装								
10	システム実装								
11	システム評価								
12	システム評価								
13	プロジェクト評価システム提供判定								
14	仕上げ発表準備								
15	仕上げ発表準備								
評価基準	評価項目/割合		評価内容						
	1. 課題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	作成したシステムの内容、創意工夫点を評価する。卒業成果発表での成果を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	システムPBL II B						学期	後	期
担当教員	内山 陽子	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	3
学習目的	Project-Based Learning (PBL)手法に基づいてシステム開発を行い、課題、問題点の発掘と解決が主体的にできることを目的とする。								
授業内容	プロジェクト（グループ）を作り、企画の作成と提示、設計～開発～テストを行う。 プロジェクト管理も行う。								
学習目標	グループで共同して企画提案(課題解決策)ができる。設計からテストまで開発工程を実施できる。 プロジェクト管理方法を学習し、プロジェクトマネジメントができる。								
使用テキスト	必要に応じて資料配布								
週数	授業計画								
1	オープニング 授業の進め方、役割分担、カリキュラム説明								
2	企画提案の作成要件定義の理解								
3	企画提案の作成要件定義の理解・企画書作成								
4	企画提案の作成企画書作成								
5	企画提案の作成企画書発表								
6	開発スケジュール策定								
7	設計書作成								
8	設計書作成								
9	システム実装								
10	システム実装								
11	システム評価								
12	システム評価								
13	プロジェクト評価システム提供判定								
14	仕上げ発表準備								
15	仕上げ発表準備								
評価基準	評価項目/割合		評価内容						
	1. 課題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	作成したシステムの内容、創意工夫点を評価する。卒業成果発表での成果を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	表現力 I A						学期	前	期
担当教員	長谷川 万葉	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	学習を通して人とのふれあいを体験し、より良いリレーションを築く。社会において活用できるコミュニケーション能力やソーシャルスキルを身に付ける。「人と対話できる」「チームで協働できる」「相手に伝わる表現力を持ち、人前で堂々と発表できる」「社会において自分らしさを発揮しつつ、より良い集団づくりに貢献できる」ことを目指す。								
授業内容	コミュニケーショントレーニングや演劇的手法を取り入れたワーク(応用インプロ、シアターゲーム)、ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループエンカウンター等のグループワークを通して、コミュニケーションを実践的に楽しく学ぶ。多様な人とのふれあいの中で、自己を知り他者を理解する自他発見の場とする。								
学習目標	学習を通して、明るい表情、正しい姿勢、相手に伝わる声、開かれた心等、接客やビジネスにもつながる健やかな心と体を育てる。人と関わり合うことの楽しさを学び、自らのコミュニケーション能力を高める。自由な発想力や表現力等、人前でも堂々と発表できるような素地をつくる。								
使用テキスト	テキストなし。適宜、プリントを配布。								
週数	授業計画								
1	イントロダクション～授業内容の説明 自己分析と目標設定								
2	シアターゲームとコミュニケーショントレーニング								
3	雑談カトレーニング								
4	対話と傾聴を学ぶ								
5	相手に伝わる話し方を学ぶ								
6	個人発表 SHOW&TELL								
7	コンテンポラリーダンス～言葉のいらぬコミュニケーションを体験する								
8	インプロ(即興演劇)～「Yes、And」思考を体験する								
9	インプロ(即興演劇)～チーム全員でゼロから創造する								
10	ディスカッション								
11	ディベート								
12	スピーチ①								
13	スピーチ②								
14	個人発表								
15	まとめと振り返り								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40 %	授業内での課題(実技やワーク)に対して、①積極的、意欲的な参加 ②失敗を恐れず前向きに挑戦する姿勢 ③チームに協力する姿勢以上の観点から総合的に評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	①欠席・遅刻 ②挨拶・授業態度 ③提出物以上の観点から総合的に評価する。						
	3. テストその他	30 %	個人発表、グループ発表等。①発表の出来 ②そこに至るまでの過程 ③取り組み姿勢以上の観点から総合的に評価する。						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	授業の進捗状況、理解度を考慮したうえで、授業の実施順、内容を変更する場合あり。								

科目名	地域連携 I A						学期	前 期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	地域に関わる活動を通して、郷土愛を育むとともに課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション能力を育てる。								
授業内容	地域課題解決する方法をチームで検討し、実際に解決案を実証する。 通年を通して実施される学科イベントに参加する。								
学習目標	調査、分析、プレゼンテーション、実践力を身に付ける。								
使用テキスト	なし								
週数	授業計画								
1	イントロダクションとプロジェクトの概要								
2	地域課題の分析と理解/プロジェクトチームの形成と役割の分担								
3	地域課題の分析と理解/プロジェクトチームの形成と役割の分担								
4	解決策の構想とブレインストーミング								
5	解決策の構想とブレインストーミング								
6	解決策の詳細な計画立案								
7	解決策の詳細な計画立案								
8	課題解決成果物の作成								
9	課題解決成果物の作成								
10	課題解決成果物の作成								
11	課題解決成果物の作成								
12	課題解決成果物の作成								
13	課題解決成果物の作成								
14	クラス内発表会:プロジェクトの振り返りと学びの共有								
15	クラス内発表会:プロジェクトの振り返りと学びの共有								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	期末課題を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	総合演習 I A						学期	前 期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	校外研修や企業連携授業などの学科活動を実施し、今後の就職への意識の向上や業界理解を促進する。								
授業内容	前期を通して実施される学科イベントに参加する。								
学習目標	学科活動に積極的に参加できる。校内外の人とコミュニケーションがとれる。								
使用テキスト	なし								
週数	授業計画								
1	イベント演習								
2	イベント演習								
3	イベント演習								
4	イベント演習								
5	イベント演習								
6	イベント演習								
7	イベント演習								
8	イベント演習								
9	イベント演習								
10	イベント演習								
11	イベント演習								
12	イベント演習								
13	イベント演習								
14	イベント演習								
15	イベント演習								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	期末課題を評価する。						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	総合演習 I B						学期	後 期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	校外研修や企業連携授業などの学科活動を実施し、今後の就職への意識の向上や業界理解を促進する。								
授業内容	後期を通して実施される学科イベントに参加する。								
学習目標	学科活動に積極的に参加できる。校内外の人とコミュニケーションがとれる。								
使用テキスト	なし								
週数	授業計画								
1	イベント演習								
2	イベント演習								
3	イベント演習								
4	イベント演習								
5	イベント演習								
6	イベント演習								
7	イベント演習								
8	イベント演習								
9	イベント演習								
10	イベント演習								
11	イベント演習								
12	イベント演習								
13	イベント演習								
14	イベント演習								
15	イベント演習								
	評価項目/割合			評 価 内 容					
評価基準	1. 課 題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	期末課題を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	総合演習ⅡA						学期	通年	期
担当教員	AD	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	校外研修や企業連携授業などの学科活動を実施し、今後の就職への意識の向上や業界理解を促進する。								
授業内容	通年を通して実施される学科イベントに参加する。								
学習目標	学科活動に積極的に参加できる。校内外の人とコミュニケーションがとれる。								
使用テキスト	なし								
週数	授業計画								
1	イベント演習								
2	イベント演習								
3	イベント演習								
4	イベント演習								
5	イベント演習								
6	イベント演習								
7	イベント演習								
8	イベント演習								
9	イベント演習								
10	イベント演習								
11	イベント演習								
12	イベント演習								
13	イベント演習								
14	イベント演習								
15	イベント演習								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	期末課題を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	就職支援 I A						学期	前 期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	働くことの意義と重要性について考える。								
授業内容	就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。								
学習目標	働くことの意義と重要性を理解し、社会人となるための心構え、知識、マナーを身につける。								
使用テキスト	Bit就職ハンドブック								
週数	授業計画								
1	【オリエンテーション】 「何のために働くのか」「社会人としての心構え」「学生と社会人の違い」について(グループワーク)								
2	非認知能力の重要性、学科が目指す非認知能力について (学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
3	働くことの責任と意義(グループワーク)								
4	【意識は行動の原点】 仕事の基本となる8つの意識について学ぶ(グループワーク)								
5	会社の仕事の決まりやしくみを理解する(グループワーク)								
6	人間関係とコミュニケーション(グループワーク) 非認知能力の振り返り自己分析①(学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
7	ビジネスマナーの基本								
8	ビジネス文書「報告書の書き方」								
9	【礼儀としての身だしなみ】スーツ着こなしセミナー								
10	インターンシップの事前授業								
11	仕事の進め方(5W2H)(PDCA)と報告・連絡・相談								
12	指示の受け方と「報告、連絡、相談」の重要性とポイントを知る。								
13	業界研究、企業研究、インターンシップ先検討								
14	インターンシップに向けての自己分析(エントリーシート作成)								
15	インターンシップに向けての目標設定								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	期末課題を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	就職支援 I B						学期	後 期	
担当教員	清水 大樹	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	就職活動や仕事を行っていく上で知っておくべきルールやマナーを理解し、習得する。								
授業内容	就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。								
学習目標	就職活動に直結する履歴書作成や模擬面接等を通して自己表現力、コミュニケーション力を身につける。								
使用テキスト	Bit就職ハンドブック								
週数	授業計画								
1	【オリエンテーション】 昨年度の実績、就職活動の流れ、社会の状況、心構えなどについて知る								
2	インターンシップの振り返り								
3	非認知能力の振り返り②(学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
4	業界・職業研究								
5	企業研究								
6	自己分析講座								
7	履歴書・エントリーシートの書き方講座								
8	履歴書作成の実践①								
9	履歴書作成の実践②								
10	採用試験について(書類選考、面接、作文、適性検査能力試験、作品やポートフォリオ提出など)								
11	適性検査能力試験 模擬受験、Web性格診断								
12	今後の就活に向けて 就職活動の報告書の提出や活用方法、各種証明書の発行、求人マッチングシステム「UMP」活用について								
13	就活キックオフセミナー「働く意義や人生をかけて成長させたいことについて考える」「就職活動の流れと準備を理解する」(外部講師)								
14	面接対策講座								
15	非認知能力の振り返り自己分析③(学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	期末課題を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	就職支援ⅡA						学期	前期	
担当教員	AD	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	自己の将来を明確にし、希望職への内定を目指す。								
授業内容	採用試験対策や採用試験の振り返りを行う。								
学習目標	グループワークを通して、様々な価値観に触れ、お互いの価値観の違いを認め受容する中で、対人関係力を身につける								
使用テキスト	Bit就職ハンドブック								
週数	授業計画								
1	【オリエンテーション】 「目指す職業」「卒業後の自分」について自己分析する(ライフプラン)								
2	模擬面接①								
3	模擬面接②								
4	会社は自分のキャリア形成の場、自分のビジネスキャリアは自分で作る								
5	ビジネス会話の基本								
6	非認知能力の振り返り自己分析④(学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
7	不満やクレームを防ぐ方法、再発防止について(グループワーク)								
8	チームワークの意義と重要性・リーダーシップとメンバーシップについて学ぶ①(グループワーク)								
9	チームワークの意義と重要性・リーダーシップとメンバーシップについて学ぶ②(グループワーク)								
10	【マネジメントの基本】 PDCAサイクル、目標から計画を立てる								
11	【マネジメントの基本】 計画の重要性について学び採用試験後の振り返りと対策の重要性について知る								
12	採用試験の振り返り								
13	採用試験の振り返り								
14	企業説明会								
15	企業説明会								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40%	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30%	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30%	期末課題を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								

科目名	就職支援ⅡB						学期	後	期
担当教員	AD	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	社会で活躍するための強い人材になる。								
授業内容	内定後の社会人ビジネスマナー講習やグループワークによるリーダーシップ、メンバーシップの実践								
学習目標	社会に出てから活躍するためのビジネスマナーや仕事の考え方・基本姿勢を身につける。								
使用テキスト	Bit就職ハンドブック								
週数	授業計画								
1	【オリエンテーション】1分間スピーチ								
2	社会人・職業人としての心構え								
3	非認知能力の振り返り自己分析⑤(学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
4	人間関係の築き方について								
5	社会人講話、地域連携								
6	社会人講話、地域連携								
7	社会人講話、地域連携								
8	就業規則と労働法:ワークルールについて学ぶ								
9	1分間スピーチ								
10	卒業後の自分								
11	社会人になる為のビジネスマナー								
12	卒業成果の課題を通してチームワーク、プレゼンテーション能力を高める①								
13	卒業成果の課題を通してチームワーク、プレゼンテーション能力を高める②								
14	卒業成果の課題を通してチームワーク、プレゼンテーション能力を高める③								
15	非認知能力の振り返り自己分析⑥(学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40 %	課題の成果物を評価する。						
	2. 授業姿勢	30 %	出席状況・授業への取り組み姿勢・忘れ物の有無を評価する。						
	3. テストその他	30 %	期末課題を評価する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	-								